

令和4年度第1回酒田市公民館運営審議会 会議記録

令和5年2月28日(火)

午前10時～11時30分

総合文化センター411号室

- 出席者 長澤和博委員、渡辺美恵子委員、岡部覚委員、大滝美樹委員、加藤千鶴委員、佐藤純子委員、成澤つるみ委員
- 欠席者 高橋一登委員、高橋利春委員、山口昇子委員、佐藤春佳委員
- 事務局 岩浪課長、木崎主任、庄司主事、佐々木主事、松本技師、小野

○委嘱状交付

○自己紹介

1 開 会 (事務局)

2 課長あいさつ

3 委員長の選出

4 委員長あいさつ

5 協 議

(1) 令和4年度中央公民館主要事業実績について(事務局 内容説明)

<質疑応答>

委員 幼児すてっぷ出前講座については当園でも活用させていただいている。当該事業について、以前はコロナ禍ということもあり受け入れの人数に制限があったが、今年度はある程度の大人数でも受け入れていただいていたことがたかった。講師の選出についてだが、どのような基準で依頼しているのか。これまでの実績によるものか、各園の希望によるものか、事業のねらいを踏まえて適切な講師を選んでいるのか。

事務局 これまでの実績を踏まえつつ、市のねらいと考え方がマッチする講師に依頼している。

委員 事業実施後には必ずアンケートを書いているが、そのアンケートに希望する講師を書けば、次年度以降反映してくれるのか。

事務局 希望があれば、事務局で検討する。

委員 生涯学習まつり2022を何年振りかに拝見した。賑わいが戻ってきたように思う。大人が多様な文化活動に取り組んでいる様子を、子どもが見て楽しむことでよい影響がある。作った作品を持ち帰ることのできるワークショップを実施している団体がいくつかあったが、より充実すると親子で楽しめ、将来の興味に繋がると思う。団体に任せるだけでなく、市から働きかけるとなお良い。昔遊びを教えている団体が、高齢化が進み後継者がいないことを嘆いていた。団体がなくならないよう、学校のPTAなど人材のマッチングに手を貸すことも必要だと感じた。

委員 生涯学習まつり2022について、今回は例年と比べ開催期間も2日間と短く、1日は湊酒田つや姫ハーフマラソンと重複したため交通規制があった。また、団体の構成員も高齢化し減少している。そのような理由から、団体側も多様なワークショップを開催したくてもできない状況がある。コロナ禍前は子ども向けのワークショップも複数あったが、実施をやめてしまった団体もありとても残念に思う。文化センター自体も市立図書館が移転し、子どもがいなくなった。毎年参加している自分から見ても、生涯学習まつり2022は子どもの来場者が少なく寂しいと感じた。市民生涯学習支援事業について、企画講座のひとつとして「自宅でできるひな人形の手入れと保存方法講座」を実施させていただいた。受講者の中には、その後のサークル活動にも参加して下さる方もおり、講座だけに留まらず次に繋がったことが喜ばしかった。中央公民館では素晴らしい事業を複数実施されているが、例えば「庄内柿を学ぼう！収穫しよう！」講座は収穫だけで終わるのではなく、庄内柿を使ったお菓子作りの講座に繋げるなど、一つの講座からさらに発展した別の講座へ繋がるような仕組みを作ると受講生も増えるのではないかと思う。また、当サークルで古い着物や帯を使ってタペストリーを作成した。生涯学習まつり2022の際、そのタペストリーを販売したところ大変好評だった。需要があると感じている。需要のある部分をどのように盛り上げていくのかというのも、中央公民館としての課題だと考えている。

委員 学校関係のものを中心に意見したい。地域の教育力向上事業について、農業体験や伝統行事の指導等、当校のある平田地区でも積極的に実施され、子どもたちを大切に育ててくださっているという印象がある。課題には児童生徒の参加に苦慮している地区もあるとのことだったが、非常に有効に働いている地域もあると感じている。コミュニティ振興会同士の情報交換を密にすることで、事業もより良いものとなるのではないだろうか。学校および児童生徒の育成にとっても、地域の活力の維持としても非常によい事業。

委員長 市芸術文化協会から見ても平田地区は活発に活動していて、感心している。コミュニティ振興会の活動報告や意見交換会などはまた別の課で実施しているのか。

事務局 当課の事業で実際に全地区から集まっていたのは研修会のみだが、まちづくり推進課でフォローしていると思われる。

委員長 地域間で温度差があるように思うので、お互いに情報交換できる場があればよいのではないかと思った。

委員 生涯学習施設「里仁館」運営支援事業について、手厚い支援に感謝している。おかげさ

でこのコロナ禍においてもたくさんの受講生から利用していただいている。全世代を対象としてこれほど多くの事業を実施している職員の皆様の労を労いたい。

委員 昨年度から公民館運営審議会に参加させていただいているが、改めて公民館機能というのは多岐にわたると感じている。高齢者から幼児まで様々な事業を実施されていて素晴らしいと思う。現在アフターコロナとして、新型コロナウイルス感染症が第5類へ移行する中、コロナ禍において子どもたちの一年というのは大人の一年と比べて貴重だったと感じている。子どもたちが体験できる機会を増やしてほしい。酒田市の財政状況が厳しいことは承知しているが、少子化が進む昨今子どもたちを優遇するべきだと思う。鳥海山・飛島ジオパーク事業について、地元にある魅力を発信していく非常に素晴らしい事業。青年会議所でも青少年育成事業があるが、中央公民館事業とコミットしていける部分がありそうだと考えている。酒田市として、子どもに対する様々な機会の提供をお願いしたい。

(2) 令和5年度中央公民館主要事業(案)について(事務局 内容説明)

<質疑応答>

委員 先ほどの発言と重複するが、講師の選定の仕方について。子どもに予算を優遇してほしいという話はとてもありがたいが、子どもは大人が思うより遅い。その一方で大人がとても疲弊しているように思う。生涯学習の講師として活動したいという人がいても、鶴岡市には講師として呼ばれるが、酒田市からは声がかからないと言っていた。鶴岡市だとやる気のある人材のアイデアを生かすことができると思う。なぜ酒田市では難しく、鶴岡市では可能なのかは不明。例えばマルシェひとつ開くにしても、鶴岡市では継続するが酒田市では継続しないと聞く。予算や人材、システムの関係もあると思うが、やる気のある人材の存在を行政に伝えるための手順を聞きたい。

委員長 やる気を阻むとは具体的にどのような壁があるのか。講師として活躍したい人ありきの事業ではなく、第三者が学びたいニーズありきで講師を選定するというのが公民館事業を企画する流れなのではないか。

委員 何かを企画しても実施できない壁というのが、本人の問題なのか行政の問題なのかはわからない。

委員 中央公民館を借用し、自らサークルを作ることは難しくない。例えばこれまで指導してきた講師がなくなったとしても、サークルのメンバーたちだけで中央公民館を利用し活動をしているサークルもある。営利を目的としない団体であれば誰でも借用することができる。

委員長 サークル紹介は広報への掲載や総合文化センター窓口への設置も可能。もっと範囲を狭めればコミュニティセンターや地区の回覧板での回覧もある。身近なところから始めるのが良いのではないだろうか。

委員 鶴岡市立中央公民館も同様に使用可能。酒田市内では文化センターが一番使い勝手が良い。また、例えば生涯学習まつりではなく、市内のカルチャースクールの生徒を募集したい方々を集め、合同説明会のような催しも賑わいが生まれて良いと思う。

事務局 酒田市では市民生涯学習支援事業のひとつとして指導者登録制度がある。登録することで各コミュニティ振興会にも共有され、そこから様々な方面に関係が広がっていくようだ。

(3) 酒田市中央公民館の今後のあり方(案)について(事務局 内容説明)

<質疑応答>

委員長 テーマも非常に大きく、具体的にどの部分に対してどの角度からの意見を求められているのかわかりにくい。目途も明らかになっていない。今日は大まかな意見を述べればよいだろうか。

事務局 酒田市内の施設を整理していかなければならない中で、総合文化センターの利用率を維持し存続していくためには公民館という機能をなくすというのも案の一つではないかと投げかけさせていただいた。突然の話なので、大まかな意見で構わない。

委員長 総合文化センターから公民館機能をなくすことでどのようなデメリットがあるかという意見を求められているようだ。今回一度きりではなく、今後も協議事項として引き続き議論していくのだろうか。

事務局 本格的に進めていくとすれば、今後も委員の皆様と意見交換しながら進めていくつもり。

委員 公民館機能の分化を説明している資料では、生涯学習施設の里仁館は公と民の中間に記載いただいている。松山には藩校があり、その歴史や教育の火を消さないようにと設立された施設だ。コロナ禍においても運営には苦勞したが受講生が減るというわけでもなくニーズの高さを改めて実感した。里仁館の課題として、施設の老朽化が著しい。体育館等修繕が必要な箇所はあれども、莫大な費用がかかることから県の方では修理しない方針のようだ。講座の中には高齢になり松山地区まで移動できないという受講生の声を受け、総合文化センターやミライニを利用しているものもある。今後様々な施設を活用し里仁館としての機能を存続していきたい。

委員 現在の酒田市人口が9万人という話があったが、今後人口が10万人に戻ることはなく10年後20年後更に人口が減少していくであろうことを見据えて、公民館廃止という思い切った案が出てきたのだと受け止めた。これまで12年程公民館運営審議会に参加させていただいているが、以前は100近い講座を3人の職員で企画運営しており、令和5年度中央公民館主要事業案はそれがブラッシュアップされた結果だと思っている。カルチャースクールで実施しているテーマは中央公民館で主催するべきでないとか、どのように受講生を確保するかなどを議論してきた。幼児すてっぷ出前講座などは定着してきた講座のひとつだろう。自分の記憶では公民館の廃止について過去一度他の委員の意見として議題に上がったことがあったように思う。その際は中央公民館の利用率の低下を危惧しての意見だったが、各地区にコミュニティセンターが整備され、利用者が分散したことが理由であり公民館としての意義が薄れてきたわけではないと結論付けられていた。個人的には法令にも定められ設置している公民館という機能は廃止することができないものと考えていたため、今回の提案にはショックを受けた。教育文化に留まらないそれぞれの分野の事業をふるいにかける酒田市全体についての会議にも参加させていただいたが、ひとつ確かなことは無い袖は振れないということなのだろう。人口が増

えない中で子どもたちの世代まで資金や資源を残していくためには、今から大切に貯めておかなければならないのだと思う。現在の酒田市は切り崩してはいけない資金で補填しているような状況だと聞いた。見直すべきところを見直し精査された事業のみが残っているとしても、更にその中から何にウェイトを置くかを決断しなければならないところまで来ている。次の世代に赤字財政を背負わせないために、それぞれが痛みを分ける、そのための方法の一つが公民館廃止案なのだろう。

委員 正直公民館について詳しく理解しているわけではない。他の委員の話聞いて思うのは、公民館機能を廃止し名称や機能が変わり、多様化するニーズに対応できるようになったとしても、これまで行ってきた公民館としての活動とのバランスに気をつけてほしい。興行や営利目的の活動に偏り、市民サークルの活動を阻害することでは本末転倒である。生涯学習の推進は継続していくことが大切である。

6 その他

委員 先日、酒田市の音楽団体協議会の総会が実施された。酒田市でも各小中学校へ声楽家や演奏家を派遣するアウトリーチ活動を行っているが、自分たちにも何かできないかという話になった。酒田吹奏楽団や酒田フィルハーモニー管弦楽団は年70回以上庄内地区で子どもたちに指導している実績がある。酒田市の子どもたちの育成にも貢献したい。ただ、担当課がわからないので、こちらで発言させていただく。危惧しているのは各学校で使用していない楽器がどのようになっているのか。捨てられてしまうのではないかと不安に思っている。各学校の備品なので集めるというのは難しいかもしれないが、そのような眠っている楽器を使って子どもたちが広く楽器に触れる機会を設けたい。

委員長 酒田市芸術文化協会でも子どもたちの育成・交流に力を入れていこうと話している。部活動の地域移行の話も聞こえてきた。様々な角度から調査をしながら、芸文協メンバーが子どもたちに指導する機会を模索している。

委員 孫を連れて遊佐町のわくわく未来館や三川町のテオトルを利用することがある。里仁館においても近隣市町からの利用が少なくない。酒田市からの補助金減額の理由として酒田市教育次長より酒田市民の里仁館利用率の低さを指摘された。おっしゃる通りだが、酒田市民も近隣市町の施設や催し物を利用している。人口減少や少子高齢化など課題はどの市町でも同じなのだから、庄内一円としてお互いに助け合えるところは助け合わなければいけない。補助金の減額の理由として酒田市民の利用率の低さを上げるのは違うのではないかと思った。広い観点から考えてくださることを望む。

委員長 総合文化センターを改修するという話を聞いた。どこをいつから改修する予定なのか。

事務局 文化資料館（仮称）のことだろうか。旧図書館跡地、現在酒田市芸術文化協会の事務室が入っているところも含めて、令和5年度予算で改修する予定。業者決定は5月なので、工事に着工するのは5月か6月頃になると思われる。完成後は酒田市一番町にある酒田市立資料館と光丘文庫が移転し、令和6年度から開館する。

委員長 施設の掲示物について。これだけの事業を行っているうえで恐縮だが、例えば総合文化センターロビーの壁面などもう少し活用の仕方があるのではないだろうか。南側入り口から入って右側の壁面には酒田の偉人の写真が飾られているが、その隣に指名手配のポスターが貼ってあるのはいかがだろうか。改善を求む。

7 閉 会